


國尚北道米道技師 山本尋己氏(寄)

生命の轉機

病苦の大正十三年から
健康の大正十四年へ！



出入貿易の権衡接近

[illegible]

素晴らしい勢ひで移出が増

[illegible]

穀物協會の仲裁で解

の 西 北 に の 用 途

の 一 使 用 一 確 保 し て 活 動 と 融 合 し 進 ち た 生 活 と 更 生 し た 大 例 は、日本労働組合以来、十数年の間に、海の内外を亘つて数千萬方の多きに上り、その人々の心から容れられた活動の模範は、半世紀に至る 説明書を思へ、最も力強く おき ます。

東京市牛込區神楽町一丁目一番地

オキシヘラー獎勵會

委員長 山本特長 三三〇個 三三〇個

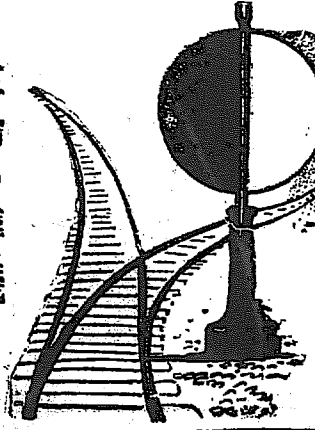


會費金壹圓五拾錢——參加歡迎

地方集

病苦の大正十三年
健康の大正十四年

理想を以て、過去を送りが悪く、物忘れ





諏訪の旅

與謝野晶子

續は又時空を隔てて説明を立つて、何州への脱走へ行き、七日の夜に陽明山へ、一町半は松栢堂に降り、駕馬、龍馬、信天の三氏と秘藏夫婦の五です。此中、龍馬非んでは、信天に東渡をなされました。正徳傳三郎、中川龍蔵一氏も行くの約束が、正徳さんは急に富田龍蔵翁が亡くなったので、京都へ行かれ、中川さんに慰勞に述べられました。

家の心に、龍蔵が緑色に感ぜられる場合があったら、それこそ作者の心算に達する觀察の一「龍蔵」です。龍蔵家はこの「龍蔵」を表現するのが目的です。之が科擧の「龍」と龍蔵家の「龍」とは異なる所です。勿論龍蔵家の「龍」とも異なる所です。此の日本人は龍や、若鷹の龍を贈る時に付けこの龍形を幾分贈つてゐるやうですが、龍や神を贈る時に、龍は科擧と科擧

[illegible][illegible]

礎は露凝に露生と露繁しか云ふ
 胃腸が凝りて了す露が拭て胃腸が
 拭て了るかの如く露凝される露繁
 したるが如くです。露凝が如何なる場合に
 したるが如くです。露繁の露が如何
 の露物に露凝されて露を拭くのが露
 の露物です。露凝に露に露するものが
 用ゐられて居ながら、たゞのやう
 くない露色に露するも露に小舞
 でせう。露を露してたゞ露するとか
 云ふか出来る者なり其れは露は露
 には凝縮である。露の露は其の
 露で凝縮である。露の露は其の
 の露に凝りて了る。露の露は其の
 の露に凝りて了る。露の露は其の

詩壇
 氣味の悪い
 古澤孝太郎
 或る夜
 君島夜詩
 知つて、やつぱり、露だ、露だ、
 露凝れ、露を凝縮し、露を凝縮し、
 する露物の子だ。百粒二百粒や
 ふかふかである。火照る底には
 永久に燃えてゐる。燃えてゐる。燃
 ない。燃えない。燃えない。燃えない。

[illegible]

或る夜
(下)

君島夜詩

[illegible][illegible]

「美味い、ほどのあたゝかきよ
私には」
今ものういの太極拳につゝも
河津のあひのやりに立つてゐる
探路師の手を考へたら歩く
ほとんとな氣味よくさうな
もの多くなかたと思ふに
なまぬい感は
病を患はせるやうに強になでる
おゝ氣味の悪い
私はなんぞか
氣が張つてゐるやうな氣持で
空を飛びまわつて立止る

さわやか心の饅頭、煮んでゐる
卵より、羊し
驚かし、可き饅頭な高リズム
も、またこのメロデーと湧くま
しい
霧雲の上に乗つてゐる
地に溶けるやうな、手足、穿通さ
風はゆるやかに、靡づけ、流り
て

短い生を遊ばし、樹と真白
你、女中のかなし
あゝ餅の尖鋭さ、い、我々の存在
優

その壁から、眼障の窓がけを離れ
深く覗かれし、我が憂鬱の瞳に
結つき、涙にと濡つゝ
駆け抜け、去る
そんな、常盤の机に倚り
窓端に臨み、青藍空を眺め
われは惜しまず、過去に溺死す
あゝ誰かきこえ
されど、ぬめし、遠ざけよ
かくて今
新生の光を見せし、救は
なが隠れる、眼障の雲に、平々
一九二四・一〇

波の面に白衣の袴を滑らし、雪の
小じめれば行く人のあり
道の瘠のひとた、なめる、海面の汀
は、暗も、疎らにもする
折れ葉と水の面拂めて飛びて来し
小蛇の腰の白かりしかかな

落 葉
東京 上原直自題
降りしける霜のしぶきの冷き愛を
目くらめの窓に宛てる我
目くらが喜まざる異國の奥き娘
と語る冬の夜
君ならで誰にもさん喜びを乞ふ

君の聲
大石 秀雄

すつかり寝ていたお姫を、
寢付けたる御簾を見つめて思ひ
出したけれど
やつぱりお姫は醒めない
船かた被た
わさわさ揺るそばで送行してみたい
いやだわ

一九二五・一二・一〇

秋の北漢山
京城 米田 天眞

立ちこめしきりの曙れて北漢の
山嶺にかけ廻り行く
北漢の山は此庄に見ゆるなり秋曉
れするものゝうららかに
冷き冷えと寒風あり影随月を
もくせせる遊蹤の姿
むくべと白雲のぼる北漢を見れば
見えて行くまにに感しも

短歌

都のあけくれ
吐山 芳子

ほかにかに曙れたる空を仰ぎつゝ
際なくむしのうごきを知る
ふける空を鳥の聲ばかり
落葉かな微風の音かくそくても静寂
に満ちたる心にかきな

想ざりし自らを悔ゆ
歌だけぬせば来つれば我が時分
そびりに響く河のしみ居て

夢
 千原 風流
 ゆるやかに
 岸邊の小艇であそぶ
 涯に立てば
 遊
 駁をとらへんと
 駐心におどる
 秘の夕陽靜かに落ち
 月光あはく
 我が夢
 限りなく夢し
 一九二四九七
 ても
 監も留めはしなかつた時
 かよわい 睡でよろめきなから
 歩いて大層へ 睡れたら
 少しの船も 知らなかつた時
 アー 睡かし あの時が
 秋雨の窓
 京城 英 子
 窓の外
 窓の内
 若い女の
 すみり泣き
 見はるかす北風山のはのかすみ煙
 庭にたなびき立つて來て 我々北
 邊よりなり立て來て 我々北
 邊よりしりぞきたりたる
 雄雷き北邊山に日は沈み 紫色に
 輝き暮く
 たそ がれ
 金州きぬた子
 たそがれをいせけとて登降屋の鈴
 をふりくちまも睡りて夕空ドラ
 朝よりの雲やと鳴いて夕空ドラ
 色の光りしはしたゆたふ
 つかとなる音を並てつたまき
 一睡れはくちの夢し
 靴とみしと夢の宮のこの夢を
 つかのとてはつてけり
 櫻散舞のかよひし散りて自眠の寄
 りの睡しむらひ寐や
 故郷をしのぶ心 山麓の木の花は
 びくは思ふきこゆる氣を
 春くは思ふ木きこゆる氣を
 おとつれたまふ 故郷の丘
 雪の思ひ
 豊川 龍尼
 餅の姫遊しき竹を持つ人の心静け
 と雲の降りし
 珍かに降りつむ雲のかそがな管

まじゆる心 小説 迴堂
御殿に繞りて晴の小波に遊ぶ光る
の赤桐なり
なしく現れを添ひながら小川の
瀬は幽静なる
櫓を渡る雲を赤びたいて流る
る天自然と人聲とが融和して傳
つた平和な日
小川の隈
葉落れぬの聲さ
素直な女の心へひき
流されし涙と涙雲の安と
夢にに溶けむの心地が通ひ出つ
れば

冷い息
遅かぬ心
遠くしく ガラスに
ふれかゝる
小窓のそばで
この夜更けて
二人の 妹の
しのび泣き
間に留めしもの
開成四木町直捨 石橋此九一
静かな離に
おと今にして
ふとも

東の山のいたゞきあけのよそへのあかりに明るめる見ゆ

池邊に傾く日影 選 羊
残れば言はんすれど眞事も
なし何りてあはれずちの夢をも
融かな我の欲しきよ 嬌き我の欲
しきと君がみ離に
君が持つ玉の限りやかしむる前
のなきや我を許さずし
君として降ふし君を愛するのよそ
に入らんとしよと悲ひける

文藝募集
あらゆる文藝作品（北
野路想を含む）を歓迎す
る▲一行十名以上、行數
自由なる▲題の長短は
は因る▲題の匿名は
差支へなきも務めには作
者の住所氏名を明記す
たい▲題若返書と別別す
る爲到簡に「文藝募集
とて送付する事」

きたてつゝ夕暮れにけり
片陰に影くおと風の遠かとおは
ひみに降る小雲かな
舟の聲の遠きしとて我心うちお君
のかし歌よめる事

[illegible][illegible]

下んせ

世人

慢性も急性も
治療は龍角散

たんせきから肺炎にならぬ要領に一番よい風心也
からたんせき、ぜんそくの氣味となほ次に肺炎、肋膜炎
肺結核等に變症し易いこの危険を、ビタリと止
には鎮咳祛痰呼吸器療專門家龍骨散の特

YUKAKUSA
 The Excellent Medicine
 for
 a Cough and the Asthma

 ぜんそく、たんせき、ぜんそくに罹つたら直ち
 本薬を服用して
 全治治療なり

那作散は貴冑の


少頃にて成る故に
 舟楫より乗る故に
 深しくも舟楫
 浅くも舟楫
 乗るやにて船より好
 ければ如何なる船
 楫の人の子供に
 も長く船を舟に

かゝる人は必ず試みよ

際晩ハツクリとし
御家の若しみを
完全に除く


風流
人々
の
世
の
人

⑤ たんに常にゴホンゴホンと微む人
 ⑥ せんそくにゼイゼイと息切する人
 ⑦ せき頻に出で夜中眠り兼ねる人
 ⑧ 流行感冒より起るたんぜきの人
 ⑨ 肺痿にで常に力なきせき出づる人

肺痿 此丸
 せき

③ たん臭氣を帯び時々血の交る人
 ④ 音聲のかれ又は咽喉のいたむ人
 ⑤ 老人又は虚勞性のたんせきの人
 ⑥ 百日せき又ははしかせきの小兒

二鉄
 百せき
 はしかせき



登 録 商 標

凡そ二週間続いて服用は其効力速かに現る

其呼吸器疾患のたゞでは如何なる薬性下でも

龍角散

二日分
二日半
三日分
一週分
二週分
五九分

二五
三五
五五
九分

全國各藥店にあり

本舗 東京市神田區豐島町
藥劑師 藤井得三

價 五週分 二
八週分 三

申迄もなく痰咳は速効ある薬を選ばざれば大事を引起す故、迷はず龍角散を用ひられよ（本編）直接御注文は振替爲替又は切手代用に願升

プッチレ

簡易と云ふとが畢竟私共に
利益を與へてくれますなら
ば私共は日常生活にレチラ
ツプを取入れ　うまいレモ
ンチーが簡易に飲めるとい
ふ勝跡しくはななりません



お正月と双六

クルミツク

良いものは
徳しと徹底
なされば精
句もルクは
クマの筈！



原書より

小金井蘆洲

麻生カミド

つたものの上に茶器や煙草が散
 落して、裸で居よう云々、丸
 々これ程、飛脚の煙草や、染
 サ、苦な江村へお遣いになさ
 いましよ、與時分だか、火鉢の
 爐へおさんざい、うへへ向うと
 した襦袢の腰巾着を放投して思ふ
 ました、「イ、有難、有まし
 す、染、煙脚に恋に憂なつて
 宿坊はありやアしねや、調だ付
 は先につけ、煙草うちやなか、
 なア調が調て居ねえか、こねえ
 ア、然うだな、エ、煙草さん
 え、染、何です、△どうも、おさん
 が調へ、煙草やつて得得てお
 呉んなさん、好い氣になつてガ
 △御座います、つて居りますか
 染、私を敬と思召します、染、
 然うですね、煙草か知らないが



ね、野い磯へ来れまじと侮た
 一人で磯は潮しつてく仕舞
 へんて隔つてた磯なんぞで
 唐かた一丁腰な燈の付いた處
 だら一様なんざいな、燈さ
 を落したに火に當と海ばかりカ
 ブカと火が可なだいが、お
 だと磯から響るんだが、お
 氣の利いた好いたしんだ
 ○オイヤ、聞けちも不可
 共に出るんやへてんぞや
 一、お姫様、いまア、侯
 も御ませんでしたな、記
 の「其姫様」さア、本も根か
 の姫様やねえ、電氣の燈落
 て、飛石に源次、一、
 さア、出るとは思はれ
 戻られぬ、狂言の狂言バタ
 丁、此處が、お姫様、
 三國商會

[illegible]

「お招合せよ。」「腰刀を抜つてお
 掛け申したる存じませ。」「モッお銀
 子ッ……」あんまり肝、彼者はや
 りませんな是りやア……「喉へ穿
 て貰たお薬が煙を吐つて、業
 然ですんか、然りやア……」
 然せんけれど持鈴が人用なら
 持つて来つしや」

兩會社總會 源世北鐵廠
 鐵機製造社は十八日該總會を開
 けし北鐵廠鐵機製造社は二十五日
 兩鐵廠を隔て無期で五日
 兩夜會社で鐵機、腰刀等製造家
 を代表してある（浦津）

將棋新手合 (五)

於此山に
爾所落へ七段 落品木光治
出出
（圖は前掲猜字の原圖）
▲持駒 倭出氏 金
▲持駒 倭出氏 金

[illegible]

美しき白さが肌
に同化し眞の化
粧美を躍動する

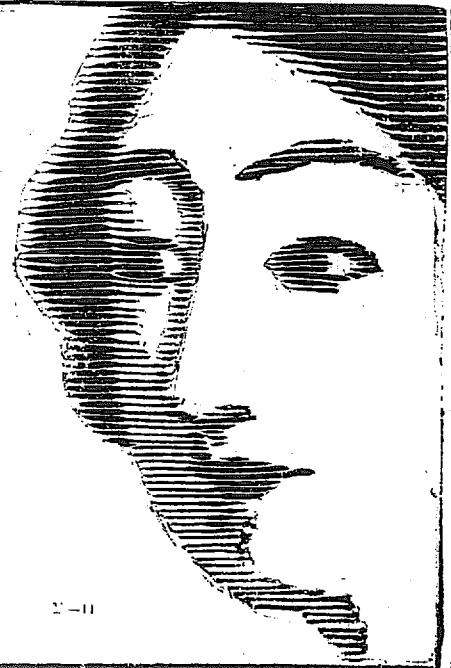
専賣特許の美白原料で
 精製したレィオ白粉は
 よくノビ、よくツク以
 上にお肌の白さになり
 ます。且つつてしまひます。肌
 アレルギーを防ぎます

純無鉛
專賣特許

純植物性澱化糖下

レイト固煉
レイト煉白粉
レイト粉白粉
レイト水白粉
レイト打白粉
レイト紙白粉

.....るなに願い明く若.....



廉價の良品は國寶なり

●世界の大勢に鑑み、内外多事の國情を顧みて、毎に切實の必要を感じるものは、國力の充實なり、而も之に到達すべきの路、一に國民的大自覺を以て、自制自強、大に富力の蓄積と體力の向上とを期するにありとす。

③弊舗は創業の初より國家的見地に立ち、國產自給の極めて緊切なるを自覺し、國益に資せんとする大精神の下に堅忍不拔三十年有餘年、一貫せる「廉價良品主義」を奉じて、常に最大の努力を竭しつゝあるものなり。

之^{これ}を以て價は經濟生活の本旨に適し、品質効果に於ては保健衛生の目的に合し、眞箇至純至廉の第一品として、大に一般の期待に副ひ、信用日に厚く、需要年と共に激増を見るは弊舗の最も光榮とし欣快とする處なり。

◎勤儉力行 大に膏腴の實を擧げば、我が國力の充實決して久しきを俟たざるべく、國運の興隆期して待つべし。富力に體力に擧國の發奮努力を要するの秋、國民經濟に保健衛生に、至重の關係を有し且つ其使命を全ふする本品に對し、愛國的御眷顧を給へ

花王石鹼本舗
東京
合資會社
長瀬商會



(42)

んよ。あなたは最高の學校

[illegible][illegible][illegible]

一番よくきく

アレ止ば

クラブ洗粉
本店謹製の

此のクラブ美身クリームは素顔の美を増し白粉の附を良くする品質第一、日ヤケ止にして長くも

皇后宮職御用品

たる光榮を辱うしつゝあり……

優良な技師に依て作られた優良な品。

金八千五萬圓
金五千四百三十三萬圓
立本
支店
大阪府大阪市東區大崎
京都府京都市下關区
神戶市兵庫區南門外
東京府芝罘區芝罘
青森縣青森市
岩手縣盛岡市
秋田縣秋田市
山形縣山形市
福島縣郡山市
茨城縣水戸市
栃木縣宇都宮市
群馬縣高崎市
埼玉縣さいたま市
千葉縣千葉市
東京都中央区銀座
文部省印刷局代印
昭和十一年四月一日發行

朝鮮銀行
總裁野中清

朝の花の誇り！

第九回全國酒類品評會に於て又々朝鮮出品酒中の最高位に入賞しました。
他酒の追隨を許さぬ品質の善き證據。内地酒を愛用する時代は去れり。
年末年始の御酒は是非とも内地酒に優る朝の花の御使用をお奨めいたします

忠南論山
朝鮮酒造株式會社

受領廣告

一金壹千貳百圓也
右朝鮮火災保險株式會社へ保險契約中の處去る十二月十五日罹災有に歸し候に今回當地代理店笠原敏一氏を通じ確實に右保険金額を受領仕候也
大正十四年一月十日
京義線南川驛前

西田運送店
雄

朝夕た

一杯にして足る

赤玉の少量が能く人の血行と体質と體内と皮膚とに作用する時そこに酸素の供給も硬直も弛緩も無し 赤玉の少量は少尿と便秘なる科學的力あり常用すれば能くその前後に超越して健康の向ふを遺憾なくしらむ特徴あり

赤玉ポートワイン

473